

令和5年10月

## 町長日誌

野菜価格の高騰については、先月の町長日誌でも触れましたが、新聞やテレビでもこのような話題が多く、家計への負担の大きさが感じられます。野菜価格高騰の原因は、夏の全国的な猛暑です。日南町では、例年お盆を過ぎると気温が下がり、昼夜の気温差が大きくなります。しかし今年は、お盆を過ぎても気温が下がらない日が続きました。こうした気候の変化が野菜等の生育に影響を与え、収穫量は減少し、それにより単価の高騰につながったものと考えています。

価格高騰は悪いことばかりではなく、日南トマトの売上にとっては好影響となりました。JA トマト生産部が目指していた販売額2億円突破の目標は、10月中旬で達成されました。2億円突破は平成30年以来の快挙となります。今年は11月5日までの出荷が予定されており、最終的に2億2千万円を目指すと聞いています。猛暑の中で奮闘された生産者のみなさんの努力に敬意を表します。

JA トマト生産部は、高齢化により栽培面積の減少や廃業はあるものの、新規就農者による後継者育成も進んでいます。日南町では農業研修生制度を実施していますが、この春採用した研修生のうちの2名はトマト農家としての就農を目標にしています。先日、研修生の間談面を行いましたが、研修生は日焼けをしたり少しくましい体つきになったりと、入社式の時とは違う印象を受けました。研修生それぞれに半年過ぎた感想を聞いてみると、全員が楽しく、また、意欲的に研修に臨んでいることが確認でき、うれしく思いました。指導者のみなさんが、研修生に寄り添った細やかな指導をしてくださっている成果だと感じています。地域全体で農業後継者育成に取り組んでいただいていることに感謝申し上げます。

資材やエネルギーの価格高騰の影響は大きいと思いますが、研修生のみなさんには、それを乗り越え、また自然との闘いを乗り越えていく、たくましい農業人になってほしいと思います。日南町の寒暖差がもたらしてくれる農産物のおいしさは、今後ますます評価を得ていくことと予想しています。そんなおいしい農産物の販路を作っていくために、私としても機会あるごとにPRに努め、適正価格で購入してもらえよう尽力していきたいと思います。

令和5年10月26日 日南町長 中村英明